

コンパス薬局横浜西 スキルアップ勉強会

2018.03.26 佐藤

第128回 インフルエンザ治療薬『ゾフルーザ錠』

塩野義製薬株式会社 様

参加者：川村先生、増山先生、内科職員、小児科職員
小西、高柳、加納、野田、小平、佐藤

この度塩野義製薬株式会社は、タミフル、リレンザ、イナビル、ラピアクタの先行品とは作用機序の異なるインフルエンザ治療薬、ゾフルーザを発売した。最先端の薬を早く提供する目的で厚生労働省が設けた「先駆け審査指定制度」が適用され、2017年10月の申請から5カ月での発売であり、世界で初めて認可された薬である。

【添付文書情報】

[参照](#)

【特徴】

タミフル、リレンザ、イナビル、ラピアクタはノイラミニダーゼを阻害する薬剤で、細胞内で増えたウイルスが細胞から外に出る経路を阻害して周りの細胞に感染が広がるのを防ぐのに対し、ゾフルーザはキャップ依存性エンドヌクレアーゼを阻害することで、細胞内でのウイルス自体が増えないようにする。

症状がなくなるまでの時間はタミフルと比べて大きく変わらないが、ゾフルーザの方がウイルスが体から早く消えるため、他人に移してしまうことが減り、家族内や学校、職場でのウイルスの広がりを抑えられることが期待される。

薬価は10mg錠が1,507.50円、20mg錠が2,394.50円。成人および12歳以上の子ども（体重40kg以上）の場合、1回40ミリグラムを服用するため4,789円。新薬の加算がついているため、タミフルの5日分の総額2,830円と比べると高い。自己負担が3割の場合はタミフルが849円に対し、ゾフルーザはおよそ1,436円になる。

【考察】

タミフルが1日2回、5日間の服用が必要なのに対し、ゾフルーザは錠剤を1回飲むことで完結するので、利便性が高く、飲み忘れも無くなる。

さらに、季節性インフルエンザAとインフルエンザBの両方で使えるので、治療の選択肢が広がる。

【質問事項】

Q1. 妊産婦への投与は可能か？

A1. 有益性投与のみ。動物実験による催奇形性は認められていない。

Q2. 授乳婦への投与は可能か？可能なら授乳から服薬まで何時間あけた方が良いか？

A2. 動物実験で乳汁中への移行が確認されていて、また半減期が長いので授乳はなるべく避けた方が良い。

Q3. 小児に処方する際、粉砕の指示をしてもよいか？

A3. 粉砕可能であるが、保険適応上推奨はできない。

Q4. 40 kg以上の患者に 20mg 錠×2 錠とあるが、これを 10mg 錠×4 錠で処方する事は可能か？

A4. 承認要件上、10mg 錠×4 錠で処方することはできない。保険上でも返戻対象になる可能性があり 20mg 錠×2 錠で処方しなければならない。

以上